

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2010～2014

課題番号：22242020

研究課題名(和文)永青文庫細川家資料の総合的解析による大名家資料学の構築

研究課題名(英文)Construction of the study Daimyo Documents by the comprehensive analysis of the Eisei-Bunko(Document of the HOSOKAWA family)

研究代表者

稲葉 継陽 (INABA, Tsuguharu)

熊本大学・文学部附属永青文庫研究センター・教授

研究者番号：30332860

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,700,000円

研究成果の概要(和文)：永青文庫細川家資料は、質量ともに第一級の大名家資料群であり、熊本大学附属図書館に寄託されている。本研究は、この資料群全体の目録を完成させ、学術的価値を明らかにした。この目録は、50,000件に及ぶ資料の内容情報を多く含むデジタルデータであり、近い将来、学界に共有されて、日本近世の歴史文化研究を進める上での基本データとして活用されるようになるであろう。

また、目録作成の過程で得られた知見は、『永青文庫叢書』をはじめとする図書等として、社会に還元することができた。

研究成果の概要(英文)：Eisei-Bunko(Document of the HOSOKAWA family) is first-class of daimyo documents to mass both. It is on display at the Kumamoto University Library. This study completed a list of the whole this document group, clarified scientific value. The list is the contents information of the document of 50000 rich digital data. The near future, be shared by the academic world, it will come to be inflected as basic data in pushing forward a historical and cultural study of Japanese early modern.

Also, the knowledge that was provided in a process of the list making, as a book including the 『Eisei-Bunko series』, it was possible to reduce the society.

研究分野：日本中世史・近世史

キーワード：永青文庫細川家資料 大名家資料学 藩侯の資料 藩庁の史料

1. 研究開始当初の背景

(1)日本近世における社会と国家の特質を把握するという近世史研究の命題に接近するためには、各大家に形成された資料群の総合的な解析を進展させ、成果を蓄積させるという基礎的かつ継続的な作業が不可欠である。そうした共通認識のもとで、例えば彦根藩井伊家、柳川藩立花家、鹿児島藩島津家、萩藩毛利家、岡山藩池田家、松代藩真田家、対馬藩宗家等の資料群について、各資料管理機関等による調査・研究事業が進展し、また笠谷和比古『近世武家文書の研究』(法政大学出版局、1998年)、国文学研究史料館アーカイブズ研究系編『藩政アーカイブズの研究』(岩田書院、2008年)の如き成果が生み出されてきた。

しかしこの過程においては、成果とともに、大家資料群の構成要素の多様性と残存形態の個別具体性などに規定された限界も、明確化したと考えられる。

それは、一般的に大家資料群が「藩侯の資料(家伝の史資料)」と「藩庁の資料(藩政史料)」などに区分される構成をとり、そのうちの、後者が散逸した状況と、前者の内容の複雑性などに規定された課題である。

(2)以上の状況をみれば、大家資料群の歴史的特質を把握するためには、「藩庁の資料」を欠落させていない大家資料群を対象とした、歴史(資料)学・文学・美術史・建築史等をカバーする研究組織による取り組みが必要なることは明らかであった。

2. 研究の目的

本研究は、大家資料群の本来の蓄積形態を色濃くとどめる細川家資料を対象として、平成21年4月に熊本大学文学部附属の研究組織として設置された「永青文庫研究センター」の歴史(資料)学・文学・美術史・建築史を専門とするスタッフの総力をあげて、同資料群の全容を明らかにすることを目的とするものであった。

(1)電子データの形態による細川家資料の総目録を完成・公表させるために必要な、資料一点ごとの調書作成と入力作業、及び重要な資料のデジタル撮影を完了させ、同資料群の構成、歴史的形成過程を解明するとともに、同資料群がひろく活用されるための基礎的条件を獲得する。

(2)「藩侯の資料」「藩庁の資料」それぞれについて、その構成と形成過程を他の大家資料群との比較作業を通じて明確にし、さらに当該期の中国やヨーロッパの行政文書群の存在形態との比較検討をも通じて、日本近世の政治・文化単位たる大家の歴史的特質を解明する。

3. 研究の方法

(1)細川家資料の所有者たる公益財団及び資料を寄託管理する熊本大学附属図書館の全面的協力体制のもとで、資料一点ごとの調書作成とデータ入力及び撮影作業を進展させる。

(2)作業は「藩侯の資料」の多様性と「藩庁の資料」の膨大さに配慮しながら、年次ごとの目標計画を設定して進める。膨大な「藩庁の資料」の調書作成には、研究センタースタッフのみならず、熊本大学の大学院生や在野の古文書研究者の協力をあおぐ。また、国内外の資料管理研究機関との研究打ち合わせ、シンポジウムを逐次開催して成果を公表する。

4. 研究成果

(1)永青文庫細川家資料総目録の作成

資料の多様さに対応するため、センターのスタッフの専門性に即して、「歴史資料」「文学・文芸・故実芸能資料」「絵図・地図・指図資料」の各担当班に分かれて、並行して作業をすすめた。目録の刊行も、「歴史資料編(1)~(3)」「文学・文芸・故実芸能資料編/絵図・地図・指図編」という、資料の性格による3部・4分冊構成(「歴史資料編」で3冊、「文学・文芸・故実芸能資料編/絵図・地図・指図編」が1冊)をとることになった。

調査はまず資料一点ごとの調書の作成から開始した。この基礎調査と調書作成は、永青文庫研究センターのスタッフによる日常の作業とともに、年に10~15日間実施した資料集中調査によって行われた。2011年度からは、調書作成と並行して、調書のチェックとデータ化の作業を開始し、2014年1月までには、「藩侯の資料」「藩庁の資料」とも、歴史資料についてのすべての作業を終えた。

「歴史資料編」全3分冊については、2015年3月に印刷・納品となった。収録点数は約40,000点である。「文学・文芸・故実芸能資料編」「絵図・地図・指図編」(併せて1冊)については、2015年夏頃に印刷・納品される予定である。

(2)資料集『永青文庫叢書』の出版

総目録作成の作業と並行して、貴重資料を収録した『永青文庫叢書 細川家文書』を吉川弘文館から5冊刊行した。

『永青文庫叢書 細川家文書 中世編』(2010年)、『同 絵図・地図・指図編』(2011年)、『同 近世初期編』(2012年)、『同 絵図・地図・指図編』(2013年)、『同 故実・武芸編』(2014年)である。

これによって、中世~近世初期の「藩侯の資料」「藩庁の資料」の主要部分を学界に紹介し、あわせて基礎的な考察を進展させることができた。

(3)シンポジウムの組織と出版

稲葉継陽・今村直樹編『日本近世の領国地域社会 熊本藩政の成立・改革・展開』を2015年2月1日付で吉川弘文館から刊行した。2013年に内外の研究者を招いて開催したシンポジウムの内容を基礎にし、永青文庫細川家資料の「藩庁の資料」を活用した研究の最先端の成果を示している。

「領国地域社会」とは、肥後細川家などの国持大名クラスの領国に成立し、藩政と対応しながら展開される百姓的な政治社会を指す概念である。熊本藩伝来の「永青文庫細川家文書」を駆使して、17世紀から転換期としての宝暦改革前後、さらに幕末維新时期まで、200年間以上に及ぶ領国地域社会の展開過程を11本の論考によって描き、日本近世社会の特質を分析した(吉川弘文館刊、総頁数307)。

本書は、2009年に刊行された稲葉継陽等編『熊本藩の地域社会と行政』(思文閣出版)の内容を前提に、本科研費メンバーに加えて外部の研究者を招いた共同研究チームを組織し、得られた成果を「領国地域社会論」として積極的に提起し、日本近世社会論のうちに定置しようとした。成果は以下の2点に集約される。

「領国地域社会」の内的特質は、16世紀以来の地域社会の持続性と特定大名による支配の継続性である。一方、大坂米市場との相互依存関係、改革主体形成の前提となる自分仕置権の幕府からの保証、そして幕末維新时期政局からの参加要請、これら3点を「領国地域社会」が有する対外的特質として指摘しうる。こうした内的特質と対外的特質を踏まえ、「藩地域」論一般とは区別された「領国地域社会論」を提起することの意義と有効性を提起した。

熊本藩領国に代表される国持大名領国は、土地所有と行政権とが一体化して長期維持され、近世社会の支配諸形態のうちの最右翼と評価される。こうした観点から、近世社会論の総体的な進展のためには、「領国地域社会」を対象とした分析の蓄積と深化が不可欠だという点が、再確認された。

(4)展覧会による研究成果の社会的還元

熊本県立美術館と永青文庫研究センターとが共催した以下の二つの展覧会によって、本研究の成果を社会一般に対して還元することに努めた点も特筆しておきたい。

熊本県立美術館「細川幽齋展」(2010年)、同「信長からの手紙」展(2014年)。なお後者は、2015年に東京・文京区の公益財団法人永青文庫へも巡回した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計21点)

今村直樹、農民一揆後の「付ケ火」と近代移行期の地域秩序、史林、史学研究会誌、

査読有、97巻6号、2014、73-105

稲葉継陽、中世の社会体制と国家、日本史研究、日本史研究会誌、査読有、600号、2012、54-81

今村直樹、近世後期藩領国の行財政システムと地域社会の「成立」、歴史学研究、歴史学研究会誌、885号、76-85、2011年

稲葉継陽、中世後期における共同体的規律化と近世の国制、歴史学研究、歴史学研究会誌、査読有、871、2010、35-37

吉村豊雄、藩政改革像の再構築、歴史評論、歴史科学協議会誌、査読有、717号、2010、5-20

〔学会発表〕(計3点)

稲葉継陽、中世国家論と時代区分論、日本史研究会中世史部会(京都)、2012.4.10

今村直樹、近世後期藩領国の行財政システムと地域社会の「成立」、歴史学研究会大会(東京)、2011.5.22

三澤純、維新変革期における民政と民衆、明治維新史学会大会(東京)、2010.6.13

〔図書〕(計13点)

稲葉継陽・今村直樹編、吉川弘文館、日本近世の領国地域社会 熊本藩政の成立・改革・展開、2015、307

熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編、吉川弘文館、永青文庫叢書 細川家文書 故実・武芸編、2014年、235

稲葉継陽・森正人編、吉川弘文館、細川家の歴史資料と書籍、2013、247

熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編、吉川弘文館、永青文庫叢書 細川家文書 絵図・地図・指図編、2013年、232

熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編、吉川弘文館、永青文庫叢書 細川家文書 近世初期編、2012年、350

熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編、吉川弘文館、永青文庫叢書 細川家文書 絵図・地図・指図編、2011年、210

熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編、吉川弘文館、永青文庫叢書 細川家文書 中世編、2010年、350

〔その他〕

ホームページ等

熊本大学文学部附属永青文庫研究センター
<http://www.let.kumamoto-u.ac.jp/eisei/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

稲葉 継陽 (INABA, Tsuguharu)

熊本大学・文学部附属永青文庫研究センター・教授

研究者番号：30332860

(2)研究分担者

甲元 眞之 (KOUmoto, Masayuki)

熊本大学・文学部・名誉教授

研究者番号：70072717

吉村 豊雄 (YOSHIMURA, Toyoo)
熊本大学・文学部・名誉教授
研究者番号：90182823

森 正人 (MORI, Masato)
熊本大学・社会文化科学研究科・教授
研究者番号：10106065

三澤 純 (MISAWA, Jun)
熊本大学・文学部・准教授
研究者番号：80304385

川口 恭子 (KAWAGUCHI, Yasuko)
熊本大学・文学部・研究員
研究者番号：30573589

山口 和夫 (YAMAGUCHI, Kazuo)
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：00239881

北野 隆 (KITANO, Takashi)
熊本大学・文学部・名誉教授
研究者番号：70040409

徳岡 涼 (TOKUOKA Ryo)
熊本大学・文学部・准教授
研究者番号：60464426

小川 剛生 (Ogawa Takeo)
慶應義塾大学・文学部・准教授
研究者番号：30295117

高濱 州賀子 (TAKAHAMA, Sugako)
熊本大学・文学部・研究員
研究者番号：20573588

今村 直樹 (IMAMURA, Naoki)
静岡大学・人文社会科学部・准教授
研究者番号：50570727